

第288回福島県災害対策本部員会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成25年3月11日(月) 9:32～9:41
- 2 場 所：第一特別委員会室
- 3 内 容：

(1) 知事から

今日でちょうど震災、また原発事故から丸2年を迎えました。しかも、この本部員会議も288回ということですが、今も皆さん御承知のとおり15万人以上の方が避難を余儀なくされております。去年は復興元年、そして今年は実行加速の年ということで、皆さんもまた気を引き締めて一層復興により加速できるよう、今年一年しっかりとこれに臨んで頂きたい。しっかり頼みます。

今日は追悼式、復興の誓いのコンサート等を文化センターで開催をするので、皆様方にもそれぞれ御参加をして頂きたいと思います。

(2) 環境放射能測定結果（暫定値）の状況について

事務局：別紙資料により説明

3月11日午前6時現在の状況で直近の測定結果を報告する。

最小値は、会津地方、喜多方市ふれあいランド高郷の $0.01\mu\text{Sv/h}$ から、最大値は、相双地方、大熊町夫沢三区地区集会所の $31.10\mu\text{Sv/h}$ となっている。

いずれも概ね横ばい、または減少傾向となっているが、2月の最大値が積雪の影響を受けているので、若干それよりも高めになっているところもあるが、12月、1月の最大値からは着実に減少している。

(3) 福島県民向け電話相談窓口 週報について

オフサイトセンター事務局：別紙資料により説明

3月3日から3月9日までの相談件数は118件。

主な内容としては、⑨土壌の放射性物質検査をしてくれる場所を教えて欲しい、という問い合わせについては、環境分析研究所を案内している。それから、⑩放射線専用の防護服はあるのか、という問い合わせについては、放射線を完全に遮るように鉛が織り込まれているような放射線専用のものはない旨回答している。

(4) 「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

先週の相談件数は6件。

主な内容は、野菜や果物のモニタリングに関するものが、3件。その他、県のHP

での記載内容や、避難農業者の一次就農支援事業についての問い合わせ等であった。

(5) 「原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口」利用状況について

原子力損害対策担当理事：別紙資料により説明

先週の相談件数は58件とやや少なめになっている。

主な傾向は、浜通り地方の個人の方からの問い合わせが多くなっている。内容は多岐に渡っているが、例を挙げると、事業者の方からは風評被害はまだまだ収まらないので賠償をもっと続けてくれという話、あるいは個人の方が、財物賠償に絡んで、所有者と実際借りて使っている方が違う場合どうなるのかという問い合わせ、あるいは家にリフォーム費用がかかっているのだけれども、それはきちんと賠償に反映されるのかという問い合わせがあった。これは一定のルールで反映される訳であるが、そういった問い合わせがきている。

(6) 経営・金融・労働の相談状況について

商工労働部長：別紙資料により説明

先週の相談件数は12件である。ここ2,3週間は10件程度であったので、ほぼ横ばいという状態である。相談内容は、記載内容のとおりで労働関係が多くなっている。

(7) 「ふくしまの赤ちゃん電話健康相談」窓口の相談状況について

子育て支援担当理事：別紙資料により説明

2月の相談受付件数は78件。相談内容としては、これまでどおり母乳に関する相談が中心となっている。

78件のうち、母乳検査を申し込まれた方が18件となっている。日を追う毎に母乳検査を持ち込まれる方の割合が少なくなっている傾向がある。

実際に、2月に母乳の検体を検査機関に送付があったのが15件。検査は既に終わっており、全て放射性セシウムは検出されずということだった。

(8) 福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査（第5回）結果について

生活環境部長：別紙資料により説明。

現在、生活道路に係る空間線量率の調査を定期的に実施しており、今回24年10月に行われた第5回の調査結果がまとまったので、報告する。

全体的に空間線量率は前回調査に比べて、減少傾向にある。ただ、減少幅については小さくなっている。全調査地点の平均値は、 $0.26\mu\text{Sv/h}$ で、前回調査から $0.02\mu\text{Sv/h}$ 減少している。次頁では、空間線量率の線量率別地点数で $0.10\mu\text{Sv/h}$ 未満の地点数の割合は、今回9.3%となっており、前回調査は9.1%だったので、0.2ポイント増えている。 $1.0\mu\text{Sv/h}$ 以上の地点数の割合は、今回は1.7%で、前回調査は2.5%

だったので、0.8ポイント減少している。次頁別紙1は、空間線量率別地点数の割合をグラフで示したものである。第4回調査が青色の線で、今回が赤色の線である。1.0 $\mu\text{Sv/h}$ 付近の山がさらに小さくなって、左側の 0.10 $\mu\text{Sv/h}$ から 0.20 $\mu\text{Sv/h}$ の山が大きくなってきており、左側の低い方に移ってきている。次頁別紙2は、空間線量率マップとなっており、一番上の表が1回目の調査、真ん中が前回4回目の調査、下が今回5回目の調査のマップとなっており、1回から4回にかけては、中通りにかけて広い地域で減少していることが確認できるが、今回は、色の変化についてはわずかな状況である。

今後とも引き続き空間線量率の把握に努めていくこととする。

(9) オフサイトセンターより区域見直しについて

オフサイトセンター熊谷副本部長：

区域見直しについて、報告する。先週の7日、政府の原子力災害対策本部が改編されて、葛尾村、富岡町、浪江町の区域見直しが決定した。葛尾村は3月22日、富岡町は3月25日、浪江町は4月1日以降となる。また、各市町村に対しては、インフラ復旧、除染状況の見通しを踏まえた解除の見込み時期を通知している。これで対象11市町村のうち、9つの市町村の区域見直しが完了して、残りが2つであるが、双葉町については、既に議会説明、あるいは住民説明会をほぼ終了しているので、早いタイミングで見直しが行われるものと思う。川俣町の調整が若干遅れているが、いずれにせよ、早いタイミングで全地域の区域見直しを完了させたいと思っている。

「福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査（第5回）結果（確定値）」 の概要について

平成25年3月11日
福島県災害対策本部（原子力班）

平成24年10月3日から10月26日にかけて実施した「福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査（第5回）」の調査結果（確定値）がとりまとめられましたのでお知らせします。

また、本調査結果に基づき、空間線量率マップを作成しました。

1 調査結果の概要

（1）調査結果

- ・全体的に、空間線量率は第4回調査に比べ減少傾向にありました。
- ・各調査地点の平均値は $0.26 \mu\text{Sv/h}$ で、第4回調査 ($0.28 \mu\text{Sv/h}$) から $0.02 \mu\text{Sv/h}$ 減少しました。（別紙1）

（単位： $\mu\text{Sv/h}$ ）

方部	調査 地点数	調査結果の範囲	過去の調査結果	
			第4回調査	第1回調査
県北	395	0.09～2.2（伊達市霊山町上小国茶畑 他）	0.09～2.5	0.16～4.4
県中	924	0.07～1.2（田村市都路町岩井沢北作）	0.07～1.2	0.12～2.6
県南	278	0.08～0.87（白河市大信隈戸カケ塚）	0.08～0.89	0.12～1.8
会津	453	0.07～0.27（会津若松市河東町代田代田）	0.07～0.26	0.09～0.88
南会津	150	0.06～0.15（南会津町和泉田欠間）	0.06～0.16	0.04～0.20
相双	199	0.08～3.0（南相馬市原町区高倉東国見）	0.09～3.4	0.18～6.8
いわき	349	0.05～3.1（いわき市川前町下桶売萩）	0.07～3.1	0.14～2.8
合計	2,748	0.05～3.1（いわき市川前町下桶売萩）	0.06～3.4	0.04～6.8

※ 測定は、道路上の地表面から1mの高さで実施。

※ 第1回調査：平成23年4月12日～16日実施。

（ただし、計画的避難区域（当時、まだ未設定）内のデータを除く。）

※ 第4回調査：平成24年5月23日～6月13日実施。

(2) 空間線量率別地点数の割合

ほぼ発電所事故前の水準まで低下したと考えられる $0.10 \mu\text{Sv/h}$ 未満の地点数の割合は、第4回調査では9.1%でしたが、第5回調査では9.3%とわずかに増加しました。

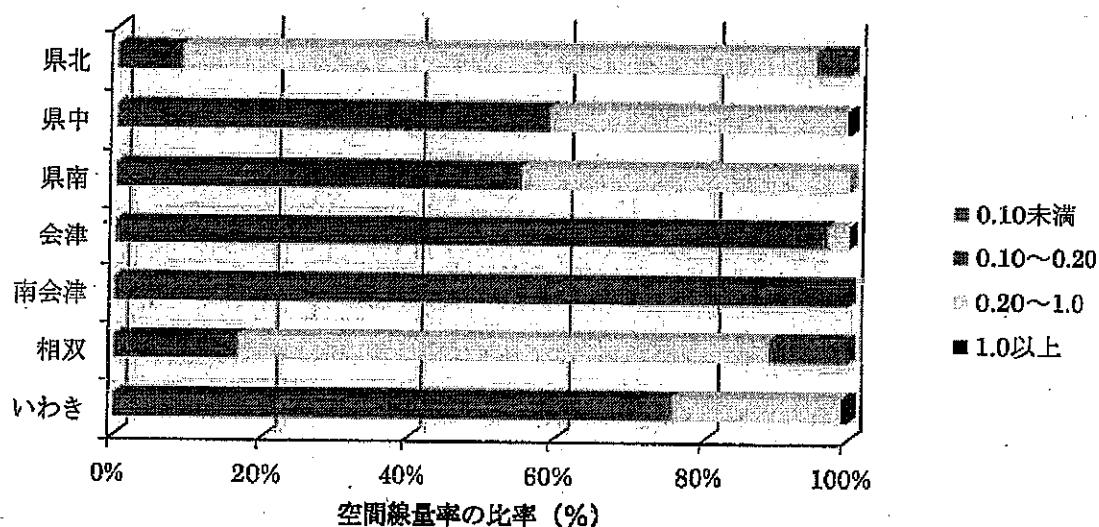
また、 $1.0 \mu\text{Sv/h}$ 以上の調査地点の割合は、第4回調査では2.5%でしたが、第5回調査では1.7%と減少しました。

(項目: $\mu\text{Sv/h}$)

方部	0.10 未満	0.10~0.20	0.20~1.0	1.0 以上	計
	地点数 (割合)	地点数 (割合)	地点数 (割合)	地点数 (割合)	地点数
県北	1(0.3%)	34(8.6%)	341(86.3%)	19(4.8%)	395
県中	20(2.2%)	524(56.7%)	377(40.8%)	3(0.3%)	924
県南	4(1.4%)	149(53.6%)	125(45.0%)	0(0.0%)	278
会津	102(22.5%)	338(74.6%)	13(2.9%)	0(0.0%)	453
南会津	119(79.3%)	31(20.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	150
相双	1(0.5%)	32(16.1%)	144(72.4%)	22(11.1%)	199
いわき	8(2.3%)	255(73.1%)	83(23.8%)	3(0.9%)	349
合計	<u>255(9.3%)</u>	1,363(49.6%)	1,083(39.4%)	<u>47(1.7%)</u>	2,748

※割合は、各調査の調査地点数に対する割合

※別紙1に、空間線量率別地点数の割合のグラフを示す。



2 空間線量率マップ

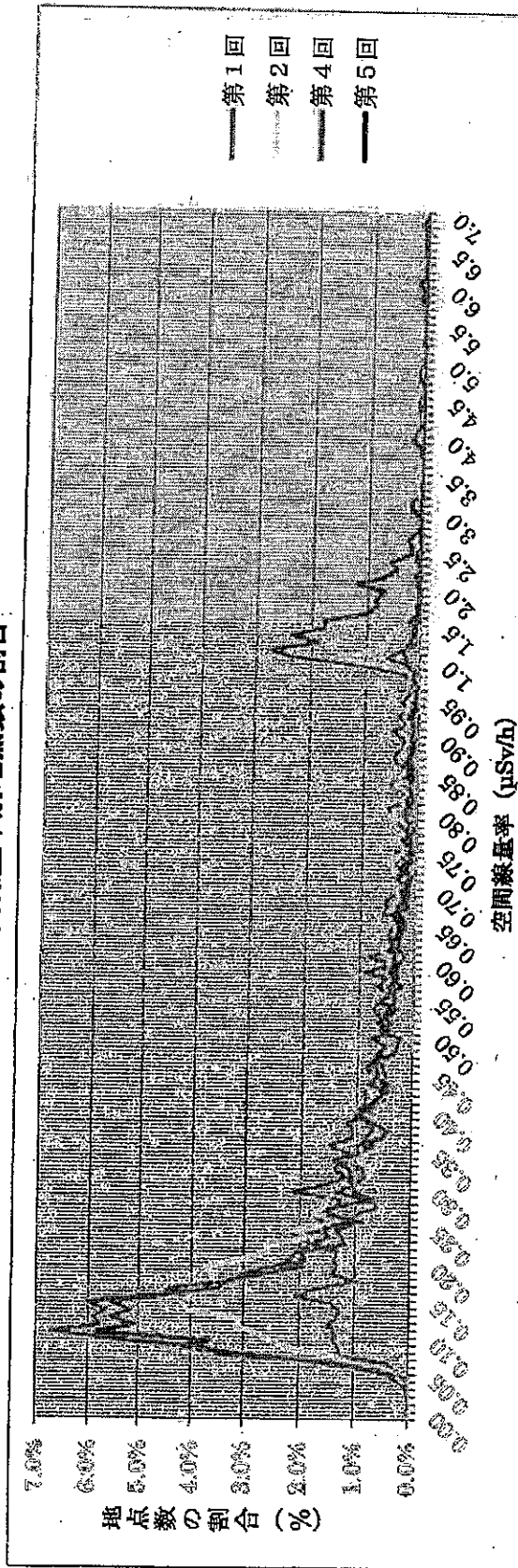
今回の調査結果を基に、空間線量率マップを作成しました。

また、変化を比較できるよう、第1回調査及び第4回調査についても、併せて作成しました。(別紙2)

※ この空間線量率マップは、道路上の測定を基に作成しており、森林、農地等の空間線量率を示すものではありません。

原子力班モニタリングチーム
024-521-1917

空間線量率別地点数の割合



	調査実施期間	調査地点数	最大値	最小値	平均値
第1回	平成23年4月12日～16日	1,779	6.8	0.04	0.67 (旧計画的避難区域を含まない)
第2回	平成23年8月17日～9月7日	2,776	5.2	0.06	0.97 (" を含む1,865地点)
第4回	平成24年5月23日～6月1日	2,767	3.4	0.06	0.38
第5回	平成24年10月3日～26日	2,748	3.1	0.05	0.28
					0.26

※ この図は空間線量率の変化を比較しやすいよう、空間線量率の目盛幅を1 μSv/hを境に変えて表記している。

※ 第1回調査では、当時まだ設定されていなかった計画的避難区域内も調査しているが、他の回と比較しやすいよう、当該区域内の調査地点は除いている。上記の表における調査地点数も同様に当該区域内の調査地点は除いている。

※ 第3回調査は調査時期が冬期であり積雪の遮蔽効果の影響と考えられる測定値の低下が見られ、時系列の変化の単純比較は難しいことから、グラフ等は作成しない。